

# 校友会報 112

## 目次

### ご挨拶

丹羽 宏之……………1

### 第112号発刊に寄せて

高山 英華……………2

### 新任のご挨拶

草野 邁……………2

### 百周年記念募金

田中 元……………3

### エステックの共同利用

丹羽 宏之……………3

### 全国大会開催報告

事業部……………5

### 学園近況報告……………7

#### 学校法人・大学

北郷 薫……………9

織野 善夫……………9

専門学校……………11

高等学校……………12

支部だより……………13

部会報告……………14

総会開催のお知らせ……………17

平成2年度事業報告書……………17

#### 平成2年度

収支計算書……………18

貸借対照表……………18

財産目録……………18

平成3年度事業計画(案)……………19

収支予算書(案)……………19

掲示板……………20

事務局だより……………21



## 21世紀の学園像を目指す 母校発展への協力と、校友の役割

—学園創立百周年記念募金への最後のご協力を願って—

校友会 会長 丹羽 宏之

若葉薫る新緑の季節となりました。

会員諸兄姉には、ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。

ご承知のとおり、本年4月より超高層の都庁舎が母校学園新宿キャンパス近隣に完成して業務を開始したことは、母校学園が、所謂、都心型大学、都心型学園として名実ともに公認されたことを意味し、校友会員にとっても洵に喜ばしい限りであります。

一昨年、完成した超高層大学棟に続いて、現在、専門学校を対象とした中層棟そして先端技術（情報）企業の入居を条件とする高度情報ビルすなわちインテリジェントビルの建設が着々と進行しております。

予定では、平成4年9月末完成を目指しておりますので、本年末から来年にかけて、徐々に地上にその偉容を見せ始めてくれるものと思います。

このように、母校学園側では、21世紀へ向けて着実に学園再開を進められ、学園校舎の超高層再建と併せて、教育内容の充実、学生および生徒の資質の向上に、積極的に努力され、工科系単科大学として、都心という地理的条件を生かした超一流の学園構想、即ち“エステック（STEC/SINJUKU TECHNO CAMPUSの略）高度情報学園街区”の実現に邁進しておられます。

約5万人にも達する数多くの会員を擁している我が校友会組織は、既に100年を越えた歴史ある

母校学園の支援を背景にした誇りある団体であると思います。

しかしながら、校友会員の学園に対する協力の評価は、単に校友卒業生の数の多寡だけで決まるものではないと思います。

如何に、母校を愛するか、如何に、母校の発展を願うか、常に、母校学園に思いを寄せ、物心両面にあって協力する校友会員の実勢こそ、真の校友として望まれる姿であり役割であると信ずるものです。

組織化された校友会は、勿論、常に責任をもって実勢を強化するために鋭意努力しておりますが、限界があります。矢張り、校友個人々が、母校愛に目覚め、かつ校友相互の親睦と、学園協力により強い結束と自主性を持って行動することこそ必要だと痛感するものです。

母校学園は、昭和62年、学園創立百周年を記念して百周年記念募金事業の活動が開始され、現在も続けられております。校友会も積極的に協力しておりますが、平成3年度は、募金活動の最後の年にあたります。既に、数多くの会員各位より多額のご協力が得られておりますが、目標額には猶、可成りの隔たりがあります。どうぞ、まだご協力されていない校友会員各位には、本年度末までに学園発展のために、是非共ご協力賜り度くお願い申し上げますご挨拶に代える次第です。

## 工学院学園の 内部充実のとき

学園理事長 高山 英華

都心型大学の先達として、新宿の超高層校舎も完成し、実際に活動し出している。

新宿はさらに、中層棟オフィス棟が平成4年の9月に完成して一応の形態をととのえ、エステック街区として発展するであろう。工事は順調に進展している。

ここで考えなければならないことは、この平成4年の一応の街区の完成を期して、工学院大学、専門学校、高等学校は、その内容を充実させなければならないということである。

この平成3年と4年の間に、学園をあげて、その内容、教学と法人業務の思い切った改革を断行しなければならない。

学園の経営は、一部の定員増、二部の再開、業務の近代化をはかってもなお、危機的な状態にあるといえる。

ここで法人教学と校友会は一体となってこの危機を脱却しなければならない。

すでに学園内では平成3年度より学園の内外と連絡をとって学園の将来を考える会を数次にわたって開催し、平成3年3月までにはその近未来に対する具体的ないくつかの施策を研究し、平成3年4月から、その具体的な実施を断行する用意がある。

これらは、エステック街区の完成するまでに決行出来るものから実現して行かなければならない。鉄は熱いうちに打たなければならない。

いずれ、具体的対策は発表されるであろうが、校友会の一層の理解と協力をお願いしなければならない。

すでに、その大綱は工学院が都心型大学にふみ切った当時に樹てられたものであるが、最近次々に出された文部省などの大学審議会における大学のあり方を先取りしているものが多く、われわれの方針は間違っていないと思うが、要はその実効である。

## 一大転機に向かう

工学院大学専門学校

校長 草野 邁

陽春の候、校友の皆様におかれては御健勝にて御活躍のこととお喜び申し上げます。

私は平成2年11月1日、北郷学長が兼務を解かれた後を受けて、専門学校校長を拝命いたしました。本校の百余年の輝かしい伝統と歴代校長の遺された立派な業績を思い、責任の重大さを痛感いたします。菲才の身であります。教職員の皆さんと心を一にし、微力を尽くして任に当る所存であります。校友の皆様にはよろしく御支援下さいますよう、お願い申し上げます。

さて、平成元年9月から専門学校は新宿新大学棟の一部と両国仮校舎に分れて授業を行ってまいり、不便を凌いではや1年半が経ちました。平成4年9月の新宿校地再開第二期工事完成時には、新しい中層棟に移転結集する予定です。この時機こそ本校の歴史で恐らく最大の転機であろうとおもわれます。

学園は平成3～4年度に、全体を挙げて努力すべき都心型学園創造のための教学施策をまさに決定しようとしています。その一つに専門学校の充実があげられ、類いなき立地条件を生かした新生専門学校を創り上げる時が参りました。新校舎の計画面積は限られたものでありますから、衆知を集めて極限の有効利用を図り、教室・実験室・教育用機器は時代と校地にふさわしい最高のものに一新しなければなりません。移転まであと僅か一年半、社会のニーズに応える学科構成やカリキュラムの見直し、大学との連携強化、生涯学習への対応等の課題は山積ですが、これを教育内容刷新の好機ととらえ、全校挙げて授業計画要綱の具体化に努めたいと思います。

ところで学園の第一の要素は人です。教職員・学生・卒業生一切の人であり、その和が学園発展の基であります。新しい革袋に新しい酒をもるのは人です。教職員学生渾然一体となった、学びの心が満ちあふれる楽しい学校を念願しております。

## ●百周年記念募金

### 学園創立百周年記念 事業募金のお願い

学園常務理事 田中 元  
(創立百周年記念事業事務局長)

卒業生の皆様には、学園創立百周年記念事業募金におきまして、多大なるご協力を賜り誠にありがとうございます。

百周年記念事業募金は、総合工学研究棟の建設、高校体育館の建設、教育研究設備の設置及び基金（研究奨励基金・奨学金）の設定を内容とする創立百周年記念事業を目的に昭和62年4月から開始いたしました。今年で5年目を迎えましたが、会社・団体からの募金は本年3月をもって終了し、個人の募金は来年3月まであと1年ほどとなりました。

ご寄付いただきました金額は、平成3年3月31日現在、個人3億8千万円（目標額の54.1%）、会社・団体5億6千万円、合計9億4千万円に達しております。このうち校友会関係は、卒業生の皆様から1億5千万円、卒業生の経営する会社等から5千9百万円のご寄付をいただいております。

ご寄付いただきました資金による記念事業についてご説明しますと、総合工学研究棟（前期工事）は鉄筋コンクリート造3階建、延床面積1,687㎡の建物が平成元年7月に竣工し、機械系学科、工業化学科及び化学工学科の研究室・実験室に使用されております。後期工事については、現在検討中でございます。高校体育館は、鉄骨鉄筋コンクリート造、一部鉄骨造地上2階建（建築基準法では3階建）で本年12月完成をめぐりて工事が進行中です。研究奨励基金は、本学園の専任教員の研究を奨励することを目的に2億円を原資として、学園研究奨励基金を設定し、平成2年度からその果実により研究奨励金審査委員会にて選考された教員に対し奨励金の交付を開始しております。一方、学生に対する百周年記念奨学金は、3千9百万円を原資に平成元年度から貸出しを開始いたしました。また、教育研究設備については、CAI教育システムの設置について検討しているところでございます。

校友の皆様には、すでに2億円に及ぶ多大なるご寄付をいただき誠に感謝に堪えないところでありますが、個人の皆様には今後とも一層のご尽力を賜りたく重ねてのお願いを申し上げます。

## ●エステックの共同利用

### 「エステック情報ビル」 共同利用者募集について

会長 丹羽 宏之

#### 募集に至る経過

大学棟に隣接して建設されるオフィス棟は、学園、日本生命及び第一生命の共同所有に係るもので、「エステック情報ビル」として正式に名称が決定され、学園再開発構想の一環として、大手最先端技術企業の入居を前提に学園側は、情報産業として最先端の企業を対象に募集を始めており、平成4年9月完成を目標に着々と工事が進められております。

この学園と企業とが一つの街区（エステック情報街区）に共存し、教育と産業技術、特に最先端企業とをリンクさせて新しい教育理念の下に21世紀へ向けて過去に類例のない全く新しい学園環境を創造しようと学園当局は、積極的に努力されておられることは皆様ご承知の通りであります。

しかも、東京都庁は平成3年4月1日を機に、西新宿で業務を開始し、学園を取り巻く環境は副都心から都心へと変貌し、行政の中心として機能する付加価値の高いそして地理的条件に優れた地域として生まれ変わろうとしております。

このような名実共に優れた環境を、学園側は、地方の校友は勿論のこと、多くの校友が少しでも有効に活用できるように、特別な配慮の下に、「エステック情報ビル」の共同利用のためのスペースを提供されております。

そこで、校友会としても、この際、学園側の好意に報いるため、理事会で設置した校友エステッククラブ渉外活動委員会に諮り、共同利用につき基本的な事業構想を立て、学園側と折衝したところ心よくその構想案にご賛同を戴き理事会の承認を得て、ここに共同利用者を募集する運びとなった次第であります。

以下に、共同利用事業構想案の概要を列記致します。

#### 1. 共同利用事業の目的

この事業は、共同利用者（以下、会員という。）で組織される事業体が都心として機能する西新宿の最新情報ビル、すなわち、「エステック情報ビル」内に会員が共同で利用できる拠点を確保し、「エステック情

報ビル」の運営趣旨に則り、会員のビジネス展開の拡大と事業の発展を図り、併せて校友会との協調、さらには校友会および学校法人工学院大学（以下、学園という。）の発展に寄与することを目的とする。

#### 2. 会員の条件

会員は、「エステック情報ビル」の運営趣旨に賛同し、かつ、共同利用に協調できる校友の個人または校友が関与する法人を主とし、他に一部、学園および校友会に寄付など協力を行った個人または法人等を含む。なお、校友以外の会員の選定には、校友会の了解を得なければならない。

#### 3. 共同利用スペース

提示される階層フロアの50坪を共同利用する。

#### 4. 会員の募集限度数

会員は、なるべく多いことが運営上好ましいが、限られたスペースから勘案して100社（個人を含む）を限度とする。

募集期間は平成3年11月末日までとする。但し、定数に達し次第締切。

#### 5. 会員の負担経費

会員は、原則として、入会金、預託金および、月額会費を負担する。

- i) 入会金 30万円
- ii) 預託金 170万円（但し、5年間据置き、解約時に全額返済する。）
- iii) 月額会費 10万円（入会者が目標数に達すれば減額可能）

但し、上記の経費以外の特別経費は、各自の負担とする。

#### 6. 共同利用施設および事業の 具体的内容（項目のみ）

- (イ) 展示コーナーの設置。

- (ロ) インフォメーションデスクの設置。
- (ハ) 専用ロッカーの設置。
- (ニ) 各種フォーラム、講演会などの開催。
- (ホ) 最新OA機器の設置。
- (ヘ) ミーティングサロンの設置。

なお、共同利用の活性化を図る新企画、さらには、具体的な事業内容の見直し等、運営方法を含めて、エステック情報協会（仮称）設立準備委員会により決定するものとする。

#### 7. 運営事業組織

当面、エステック渉外活動委員会が募集の窓口となつて、校友会の業務を代行し、エステック情報協会設立準備委員会の設立後は、同委員会が中心となつてこれに当り設立の準備と規約を起案すると共に発起人総会を開催して、エステック情報協会を設立する。「エステック情報ビル」完成後、具体的に事業を開始する。

なお、設立される協会は、校友会とは別組織で運営するが、学園法人側および校友会側より運営のための役員を受入れることとする。

#### 8. 応募問い合わせ窓口

応募内容など、詳細資料ご入用の方は、校友会事務局へお問い合わせ下さい。

TEL 03-3342-2064（直通）  
☎ 03-3342-1211（内線2025）  
FAX 03-3342-2035

## 第9回全国大会（静岡県大会）開催報告

### 事業部

「学園創立100周年記念事業を成功させよう」をスローガンに、平成2年10月20日(土)“静岡市内、静岡ターミナルホテル”を会場にして、全国各地から200余名の参加者と学園側より、高山理事長、北郷学長、常務理事、大学各科主任教授、高等学校校長並びに、学園の諸先生と多数の来賓を迎え、盛大な大会となりました。

当日は「第一部」大会、「第二部」記念講演、「第三部」懇親パーティーをもって構成され、「第一部」は関戸副会長の開会の辞、山崎大会実行委員長（静岡県支部長）、丹羽会長の挨拶に続き、来賓として、高山理事長、北郷学長、天野静岡市長より祝辞が述べられました。

引き続き、来賓の田中常務理事の学園創立100周年事業並びに募金についての説明報告が述べられました。

最後に吉岡事業部長の閉会の辞をもって、第一部を終了しました。

なお、学園に大会記念として、“北 秀玉作 一刀彫 赤富士”が大会実行委員長により贈呈されました。

「第二部」記念講演では「ロボット技術の現状と今後の動向について」と題して本学電気工学科横山修一助教授より、講演がありました。

「第三部」懇親パーティーは、来賓の岡村常務理事、黒川常務理事の祝辞、足立前会長、ご来賓の挨拶と続き、会場は熱気に包まれる中を、“新ちゃつきり節”“宮川太鼓”の歌と踊り等、楽しいひとときを過ごしなが、母校と校友会の発展並びに学園創立100周年事業の成功を願い「万歳」をもって、大会は無事終了いたしました。

翌日は、“登呂遺跡”“三保羽衣の松”“久能山東照宮”“日本平”の名所旧跡めぐりと、富士山と駿河湾に代表される自然の美しさを満喫され、参加者一同静岡大会の最後を旅情にひたることが出来ました。



山崎大会委員長（支部長）挨拶

高山理事長挨拶

北郷学長祝辞

今回も大会に先立ち、全国支部長会議の開催、2年余りに亘る大会役員の方々の努力と共に、受付等の静岡県支部役員の方々の積極的な協力、そして事業紹介、広告協賛等、本大会の成功への御協力を心より感謝する次第です。

尚、次期第10回大会は、広島県地区において、開催が決定されており、2年後を楽しみに、更に盛会にして頂きたく皆様方をお願い申し上げます。



静岡県支部長と次回第10回大会開催地の舛井広島支部長との握手によるエール交換



出席者記念写真



● 学園近況報告

学校法人

本学園関係者の叙位・叙勲等受賞について  
(平成2年3月~12月)

故都築武一顧問が正六位(3月24日付)、鶴戸口英善評議員が勲二等瑞宝章、葉山房夫評議員が勲三等瑞宝章(平成2年春)、故丸山芳治元工業科学特別専任教授が正四位・勲三等瑞宝章(6月10日付)、木村啓造元生産機械工学科教授が勲三等瑞宝章(平成2年秋)、高等学校竹花有世教頭、穂本佳能教諭、岩崎 明教諭、上野憲作教諭、太田雅康教諭、大庭一平教諭、北村 博教諭、滝沢幹雄教諭、松崎允教諭、諸墨輝男教諭が八王子市市

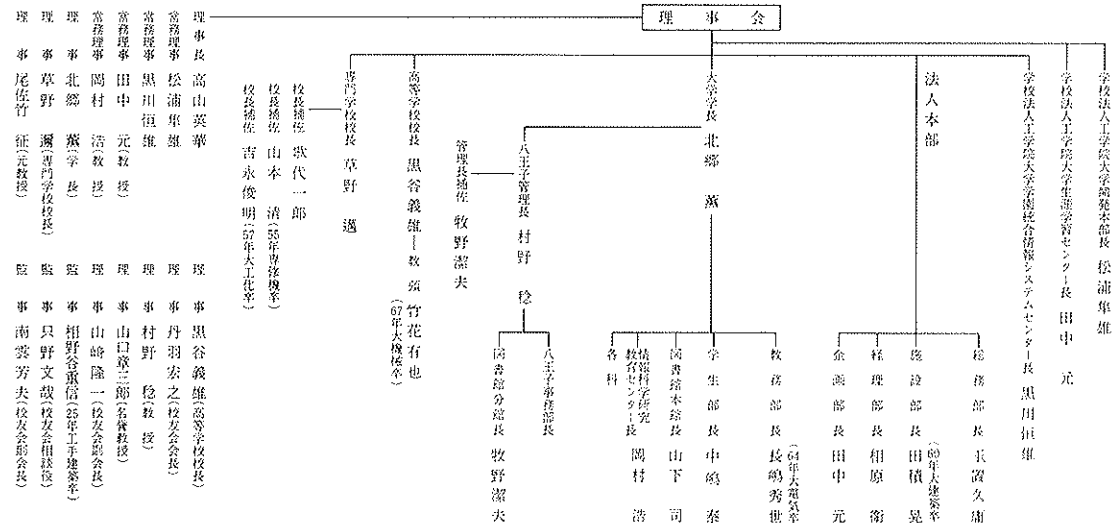
● 法人だより

民文化表彰(学校教育功勞)を受けられました。

下記のとおりご寄付がありました。  
社団法人工学院大学校友会から、新大学棟の完成を祝い、学園の今後の発展に供する寄付として5千万円、第9回全国大会(静岡県大会)を記念して、高岡銅器、一刀彫彫金(額入)北 秀玉作「赤富士」1点、がありました。

創立百周年記念事業募金申込状況について  
平成3年3月31日現在(会社・団体第1期分除く)  
申込件数 11,114件  
申込金額 705,367,592円

学校法人 工学院大学役職者名簿



大学

● 総合窓口化への志向

大学はいま、新宿校地の開発に併せて都心型大学の内容構築の緒のひとつとして大学業務全般の情報システム化を急ぎ進めている。この計画は大学と大学院に在籍する全ての学生を対象とした統合情報データベースを構築し、教育支援や学生へのサービス等を目標としている。中でもとりわけ興味深いのは総合窓口支援システムである。

このシステムは学生はもとより、卒業生・父母・受験生が自からコンピュータ端末等を駆使して、入試案内・履修、卒業証明書、成績証明書、就職情報等、必要な情報の照会や資料の提供を昼夜わかつ受けられる仕組みにつき、計画が順調に進めば中層棟完成時に新システムは稼働となり、卒業生へのサービスが更に高まることになろう。

● 第2部学生募集を再開する  
1986年から学生募集を一時中断していた工学部第2部(夜間授業・修業年限4年)は1991年(平成3年)から

● 大学だより

学生募集を再開した。再開された第2部カリキュラムは、米たるべき高度情報化社会に備えたコンピュータの基礎教育・システム開発・応用の諸分野に互る専門教育科目の設置を特色とし、社会人にも広く学習の機会を与えることを眼目としている。

● 臨時入学定員増について  
かねてより、第1部臨時入学定員増の申請を進めていたが、平成2年12月21日付で文部省より認可があった。これにより、平成3年4月1日より平成12年3月31日までの期間、入学定員は現行の920名に加え臨時入学定員240名の計1,160名となる。

● 入学志願者状況  
1991年度の大学第1部前期試験は2月6日~9日の4日間にわたって行われた。志願者数は14,519人(前年比359人増)となり、入学定員に対する平均倍率は12.5倍であった。学科別の志願者では機械系学科と建築学科の伸びが目立ち、女子の志願者は前年より119人多い710人となった。

なお、第2部の入試は2月21日(木)、第1部後期入試(今年度より分割実施)は3月11日(月)に実施される。



● 就職状況  
平成2年度の求人状況は、商業・金融・情報処理などの第3次産業の積極的採用活動と理工系学生を大量採用してきた電気電子機器・機械・精密機械・輸送用機器など第2次産業の実績に加え、鉄鋼業・造船業など重厚長大産業の躍進により空前の超売り手市場となった。  
求人会社数は7,840社(前年比6.2%増)内、資本金10億円以上の企業が183社(前年比14%増)、求人延人数24,353人で求人倍率は26.6倍であった。  
一方就職状況は、従業員数1,000人以上の企業への就職者が全体の74%を占め、Uターン就職は年々減少し、大企業、大都市部への集中化が顕著であった。

1991年度 第1部《前期》入学試験結果

1991年2月16日現在

部	学科・コース	入学定員	志願者数	前年比増減数	受験者数	合格者数	実質競争率	
							91年度	90年度
第1部	機械系学科	300	3,763 (37)	△521	3,602	666 (7)	5.4	4.2
	工業化学科	150	1,459 (97)	▼71	1,418	369 (32)	3.8	3.5
	化学工学科	100	704 (34)	▼269	661	198 (13)	3.3	3.4
	電気工学科	150	1,447 (13)	▼222	1,404	330 (4)	4.3	3.7
	電子工学科 電子工学コース	200	1,802 (63)	△197	1,732	298 (14)	5.8	4.3
	電子工学科 情報工学コース		2,067 (126)	▼179	1,942	266 (16)	7.3	7.5
	建築学科	260	3,277 (340)	△382	3,166	449 (55)	7.1	5.3
合計		1,160	14,519 (710)	△359	13,925	2,576 (141)	5.4	4.5

注) 1. ( )内は女子内数



## ●大学だより

### さらに教育と研究の 充実をめざして

工学院大学学長 北郷 薫

本学園の校友の皆様方におかれましては、お元気にてご活躍のことと拝察致します。

学園将来計画に従って建設中でありました新宿新校舎高層棟が平成元年7月末日に竣工し、9月新学期から学園の教育と研究に活用され初めてから早くも1年半の月日がたちました。

学生諸君も高層棟新校舎に慣れて都心型大学における学生生活を楽しんでいるように思われます。新宿校地の第2期工事も順調で平成4年9月には本学園の中層棟と、日本生命、第一生命の両生保のオフィスビルが同時に完成します。新宿校地における工事はさらに第3期工事が残されていますが、学園に関係が深いのは第2期工事までと考えてよいと思います。

中層棟が完成して高層棟と連続いたしますと一階には広いイベントホールができます。高層棟だけでは、いろいろと無理がありますが、中層棟ができれば、新宿校舎は完全に近いものとなり学生諸君もさらに満足してくれるでしょう。

八王子校地における教育、研究も一段と活発になってきています。本学は新宿校地だけで成立するものではありません。八王子校地があつてはじめて新宿校地の価値も上ります。

学園将来計画の遂行にあたって、われわれはこれまで建物の建設に目を向け過ぎていたと思われれます。今、新宿校地の第1期工事が終り第2期工事も順調に進行して竣工の目が見えている時、教育、研究内容の充実が遅れていることに気がつきました。もちろん数年前に比べれば教育・研究の改良、充実は進行していますが、これからというところが多く残されています。

われわれ教職員一同は力をあわせて、教育・研究の内容の改良、充実をはかり、どこにも負けない学園とするよう努力中でありませう。校友の皆様方の絶大なご声援を期待致します。皆様方のご健康とご活躍をお祈り申し上げます。

### 岡田先生を偲んで

昭和34年電気工学科卒  
本学助教授 本会評議員 織野 善夫

校友の皆さんに悲しいお知らせをしなければなりません。今年の1月14日元学長の岡田実先生が有隣病院に於て御逝去なさいました。享年83才でした。

謹んで哀悼の意を捧げます。

先生は明治40年10月13日千葉県にて誕生、昭和6年東京帝国大学工学部電気工学科を卒業され、ただちに通信省電気試験所に入所、通信省電気通信研究所試験部長、日本電信電話公社、電気通信研究所試作部長、同方式部長、同理事、昭和32年東京大学教授（理工学研究所）、昭和39年東京大学宇宙航空研究所教授、昭和43年工学院大学電子工学科教授、昭和45年工学院大学学長、昭和49年運輸省航空機事故調査委員会委員長等を歴任されました。この間電子通信学会副会長、同学会電気通信技術委員会会長、同規格調査会副会長、I E E E フェロー、電子技術審議会（科学技術庁）、航空審議会（運輸省）、航空技術審議会（総理府）、電波審議会（海上保安庁）等の各省庁の専門委員として活躍され、また航空機事故調査委員会委員として全日空バンダイ号、カナダ太平洋航空機、BOAC（英国海外航空会社）航空機、東亜国内航空YS-11機等の事故調査で活躍なさいました。昭和43年功績賞（電子通信学会）、同43年紫授褒賞（海上保安庁）、同47年交通文化賞（通産大臣）、同55年勲2等旭日重光賞を授賞なさいました。

先生が工学院大学に着任なされましたのは昭和43年で、学部では無線工学、計測工学、大学院で

は同特論を担当なさって居られました。大学院のゼミにも参加させて頂きましたが、非常に広い視野をお持ちになって居られ学生をよく指導なさって居られました。

先生の業績はまえに述べました通りで日本の航空、海上の電波を応用した航法の第一人者として日本の航空行政にも大きな影響を与えて居られました。

特筆に値する業績は全方向レンジビーコンを發明された事だと思います。現在国際標準としてVOR（VHF Omni-directional Range）と呼ばれる超短波全方向レンジビーコンが有りますが、これは先生が中短波帯で昭和10年位相差検出式無線標識として發明されたものと同じ原理のもので、1939年（昭和14年）アメリカで独自に提案され、それ以後同国で開発が進められた方式で、太平洋戦争が終わってから1949年（昭和24年）ICAOの国際標準として採用されたものです。

工学院に着任された当時、農業散布のヘリコプター事故が多発しており、研究室の研究テーマとしてこの事故防止方式の開発に取り組んでいました。航空振興財団の中に事故防止の為の部会が作られ、東大、工学院、相模工大、郵政省の人達と一緒にいろいろな方式の検討を行ないました。実際にヘリコプターを飛ばして音圧のデータ測定を卒論生も参加して行なう等研究にも大変意欲的に取り組まれていました。

昭和45年当時日本国内は全学連、民青、ベ平連、

等色々の学生派閥があつて、学生運動の最盛期で工学院も東大紛争に若干遅れてその渦中にありました。初代野口学長の後任を選出するため新しい学長選挙規定に沿って学長選が行なわれ、先生は昭和45年選挙によって選ばれた初代の学長として学長に就任なさいました。

就任と同時に学園紛争収拾の中心的存在として学生対話を行い、二者協議会等各種委員会を設置され昼夜を問わず紛争の収拾、大学運営にあたられ、本当に御苦労をなされたと思います。学長になられてからは余り研究室の方には顔をおみせになりませんでした。研究室に来ると本当に気が安らぐと本音の感想を述べて居られました。昭和49年の半ば内閣の航空機事故調査委員会の委員長として工学院大学を去られましたことは工学院にとって大きな損失でありました。

先日告別式の時経堂の教会で先生の私人としての日常生活の話伺いましたが、先生は敬虔なクリスチャンとして毎日曜日の礼拝を家族全員で行い、また長年にわたって経堂教会の日曜学校校長を勤める等、きびしい生き方を御自分に課して居られ、これを当り前のこととして学園紛争当時も行なっていた事を伺い、いまさらながら先生の人間としての大きさがわかったような気がします。この様な先生が工学院大学に居られた事を私どもは誇りに思い、人生を厳しく生きられ、研究と教育に一生を捧げられた先生に永遠の安息が与えられます様祈りたいと思います。

## ●専門学校だより

### 専門学校

#### 平成2年度主要行事

昼間部正課の体育授業が今年も活発に行われました。夏季学外体育として、バレーボール、硬式テニス、卓球、サッカー、ソフトボールなどは、山梨県の忍野村で4泊5日の合宿授業が行われ、さらに冬季学外体育では、スキーが菅平にて同じ合宿授業として実施されました。また秋季恒例の第43回製図・作品展は、11月23日～25日の3日間、大学棟28階において、昼・夜間部が一致協力し

#### 平成2年度の採用先企業の規模別分布

企業規模 資本金、従業員	平成2年度		
	社数	人数	分布別 (%)
100億以上, 又は3千人以上	57	103	21.59
10億以上100億未満, 又は千人以上	70	94	19.71
1億以上10億未満 又は300人以上	101	138	28.93
1億円未満且つ300人未満	96	127	26.63
公務員及び営利団体	7	5	3.14
合計	331	477	100.00

#### 平成2年度採用の初任給

業職種	初任給区分	最高円	最低円	平均円
土木測量・調査・設計・施工		190,000	148,350	166,038
建築・施工技術		205,700	148,000	164,663
建築・設計監督		205,000	135,000	162,066
建築設備・設計・施工監理		175,000	144,000	160,794
施設機械・保守サービス		180,000	142,000	152,469
電気・電子機械・生産・生産技術		175,000	133,090	152,133
情報処理サービス技術		175,200	140,000	152,787
化学系生産管理・品質管理・測定分析		183,000	140,000	157,944

て行う伝統行事として実施されました。特に昼間部は新宿と両国に一時的に別れているとは云え、夜間部を含めて全学科の製図・作品が一堂に会する意義深い展示会となりました。

その他、6月の父母会総会（昼間部）、7月の電卓検定試験ならびに各科主催の資格試験受験講習会の随時実施なども定例の行事でした。

#### 平成2年度就職状況

社会的な求人難を反映し、537名の求職者に対し、延9,055社、14,473人（前年比で29%増）の求人がありました。主な就職先は下記のとおり。

ソニー、日立製作所、東海旅客鉄道新幹線事業本部、昭和電工、旭化成工業、青木建設、清水建設、大和ハウス工業、帝人、キャノン販売、日清紡、東急建設、富士ゼロックス、鉄建建設、アマノ、カヤバ工業、東亜建設工業、関電工、ソニーマグネスケール、ジャムコ、日本電設工業、日比谷総合設備、日特エンジニアリング、新

#### 昼間部 平成3年度の入学応募状況

科別	定員	推薦入学	一般入学 1次	一般入学 2次
土木	40	23	32	23
機械	80	23	53	54
建築	80	144	288	167
電気技術	40	18	40	19
電子情報	80	41	121	68
応用化学	40	13	37	39
合計	360	262	571	370

#### 夜間部 同上

科別	定員	3年度 志願者数 3/25現在
土木	40	37
機械	100	35
建築	100	206
電気	40	57
電子情報	80	50
応用化学	40	40
建築設備	40	54
合計	440	479

## ●高等学校だより

菱冷熱工業、三和ホーム、マースエンジニアリング、飯田建設工業、山陽電気工業、日本化学産業、熊谷道路など。

採用先企業の規模別分布および業・職種別初任給は表

### 高等学校

#### 百周年記念体育館建設始まる

念願でありました百周年記念体育館の工事が、平成2年12月始まりました。構想が示されてから5年の歳月がたちました。この間の学校法人のご努力とご熱意の上に校友会・PTA・後援会そして教職員の皆様がたのご協力があったからこそと感謝申し上げます。

24年間慣れ親しんできました体育館は、現在その跡形もなくきれいに整地され、この会報がお手元に届くころには、基礎工事が完了し鉄骨が建ちはじめていると思います。

新体育館は、1階はスペースが二分されており、一方は156畳敷の柔道場、他方は多目的フロアになっております。この南北に隣接したブロックには、教員室・シャワー室・更衣室・便所・部室・倉庫などが設けられます。中二階には部室が設けられ、これで念願でありました体育系クラブはすべて部室を持つことができます。2階はバスケットボールのコートが2面取れるアリーナとステージ・倉庫・放送室・控室が設けられます。このアリーナには1600人程度収容できます。北側からのギリシャの神殿を思わせる大階段をあがると2階アリーナ入口となっております。入学式・卒業式のおり記念写真を撮る絶好の場所となるでしょう。階段下にも部室・倉庫が設けられます。平成3年12月の竣工が待たれます。

校友の皆様がた、これまでのご協力・ご支援に深く感



工学院大学創立百周年記念高等学校体育館完成予想図（平成3年12月竣工予定）

に示すとおりでした。

平成3年度の入学応募状況は、表に示すとおり昨年度とほとんど同じでした。

謝申し上げますとともに、残されました募金期間に、なお一層のご協力・ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

#### 進路状況

1月末現在の進学者は、工学院大学I部（昼間部）126名、II部（夜間部）30名、帝京大学、秋田経法大学に各1名、新潟工業短期大学2名、工学院大学専門学校29名、他の専門学校に54名の状況で、進学決定率は約66%です。

就職は、例年のように数多くの求人会社があり、希望者36名全員が10月末に内定し、自営を含め41名となりました。主なる就職先は、東芝、日立、本田技研、日野自動車、東京電力、三菱重工業、警視庁、昭島市役所などです。

#### クラブ活動

平成元年の自然科学部のような顕著な活躍はみられませんでした。各クラブとも活発に活動しております。2年連続関東大会出場をはたした柔道部、はじめて都大会に駒を進めたサッカー部等紙面の都合で書ききれませんが、3年度も多めに活躍をしてくれることでしょう。

#### 募集状況

平成2年度より工業科の募集を停止し普通科の定員増とし、普通高校への切替を計りましたことは、すでにご存じのことと思います。お蔭様で3年度400名の募集に対し3倍強の1200名を超える応募者がありました。校長をはじめ教職員一同、なお一層学校の充実・発展に努めてまいりますので、校友の皆様がたの暖かいご声援をよろしくお願い申し上げます。



●支部だより

■平成2年度支部総会報告

平成2年度の支部総会は80支部中20支部に於いて支部総会が開催され、多くの校友が参加され親睦を深められました。(3月2日現在)

開催支部はつぎの通り

- 4月22日 千葉県支部 山口県支部
- 5月27日 秋田県支部
- 6月3日 宮城県支部
- 9月 江東支部
- 10日 山形県支部
- 24日 栃木県支部

- 6月30日 愛知県支部 大阪支部
- 7月2日 東芝支部
- 8月23日 山梨県支部
- 27日 北海道支部
- 9月22日 横浜支部
- 29日 兵庫県支部
- 10月7日 多摩支部
- 10日 青森県支部
- 11月4日 新潟県支部
- 17日 荒川支部
- 22日 川崎支部
- 2月9日 鳥取県支部

■沖縄県支部だより

第1回 ゴルフコンペ(事業担当)

於 那覇カントリークラブ

日時 1月31日 午後1時スタート

参加者 13名(評議員17名中)

初めてのコンペでしたが、盛況の内に親睦ゴルフコンペを開くことが出来ました。次回以降は広く会員にご案内し、多くの参加を得たいと思います。



■愛知県支部だより

平成2年2月3日(日)郵便貯金会館にて愛知県支部の新年会を開催致しました。当支部は鈴木支部長を中心に、幹部が協力して支部総会および新年会を毎年実施している。

この総会、新年会も開催することに参加者が増え、今回は29名という大所帯となった。“常に50名の出席者を維持できる支部に育て上げることが夢です。”というのが鈴木支部長の弁。

また、隣接支部である岐阜県支部との交流も日頃からおこなわれており今回の新年会にも松原支部長、名和副支部長、他1名が賛助出席した。又、山内藤二郎氏(T15造船卒)、畑中康秀氏(S17建築卒)中村専一氏(S22化工卒)他の大先輩方々の御出席をいただき、昔の苦勞話などを伺えることも愛知県支部内での友好関係に大

きく貢献している。

懇親会では本支部を日頃から影で支えてくれている後援会の女性陣を交え、名刺の交換、支部員の消息、仕事の上での情報交換、等々和気あいあいのうちに進行した。

今後更に組織の輪を広げ、目標の50名を越える大きな友好組織へ発展されることを祈る次第です。



●部会報告

■平成3年度支部総会開催予定

平成2年度の支部総会開催予定支部を会報111号にご案内した9支部中8支部が実施いたしました。平成3年度支部総会開催予定支部をご案内いたします。何分先のことですので、総会の近くになりましたら、各支部の方に電話を入れて、日時、場所をご確認の上、ご出席いただきますようお願い致します。

平成3年度

4月20日(土)午後3:00より広島県支部

場所 広島駅前を予定

TEL 0849-54-3174 (上船幸喜宅)

5月初旬頃 山梨県支部

TEL 0552-52-8212 (加藤正芳宅)

5月19日(日)千葉県支部 場所 両国校舎7階

TEL 0474-97-1339 (佐藤正吾宅)

5月19日(日)栃木県支部 場所 宇都宮市内

TEL 0286-75-0511 (阿久津利宅)

5月26日(日)午前11~12時 相模支部

場所 母校28階会議室

TEL 0427-43-1010 (清水利治宅)

5月26日(日)午前11~12時 小田原支部

場所 母校28階会議室

TEL 0465-82-0784 (渋谷 稔宅)

6月2日(日)宮城県支部 場所 仙台市内

TEL 022-233-7003 (山本正朔宅)

6月9日(日)山口県支部

TEL 0834-21-8421 (溝上俊治宅)

6月9日(日)山形県支部

TEL 0236-22-4486 (長岡喜美男宅)

6月16日(日)午後3時 埼玉県西支部

場所 川越市いずみに於いて

TEL 0493-22-1361 (谷口弘明宅)

6月中旬頃 秋田県支部

TEL 0188-79-2020 (中川勝二宅)

6月22日(土)川崎支部 場所 母校28階 午後1時

TEL 044-777-6639 (太田定吉宅)

7月7日(日)群馬県支部 場所 高崎ターミナルホテル

TEL 0279-54-4410 (中島治男宅)

7月13日(土)大阪支部

TEL 06-322-0317 (近藤竹司宅)

8月24日(土)北海道支部 場所 札幌市内

TEL 011-781-7854 (馬淵寛志宅)

9月1日(日)午前11時 静岡県支部

TEL 0542-82-3855 (山崎弘資宅)

9月8日(日)横浜支部 場所 母校28階 午後1時

TEL 045-881-6911 (金田昭治宅)

9月15日(日)岐阜県支部

TEL 0582-32-8085 (松葉浩一宅)

9月28日(土)午後6時 兵庫県支部

TEL 078-391-0935 (岡本耕一宅)

9月29日(日)午前10時 青森県支部

TEL 0172-36-4034 (外川譲二宅)

11月2日(土)午後6時 鳥取県支部

TEL 0858-36-3627 (桜井哲照宅)

11月22日(金)沖縄県支部

TEL 0988-53-1623 (高江州隆宅)

11月23日(土)荒川支部

TEL 03-3880-0511 (南雲芳夫宅)

11月下旬 中野支部

TEL 03-3384-1511 (樋口利一宅)

事業部

平成2年度の事業活動は、昨年10月20、21日に行った全国大会の実施(別途報告)と、平成4年度に行う全国大会(広島支部を中心とする中国地区大会)準備を行っ

た。

その他、校友クラブ開設、校友カードの発行を検討しています。



## ● 部会報告

### 総務部

総務部は各部門の調整と、常任理事会、理事会及び総会、評議会の下ごしらえが主業務ですので、常に校友の親睦と本学園の発展と、学生への援助協力と言うことを心がけております。以下2年度の活動等を報告致します。

#### 第1回理事会（2・4・13）

- 議事 1. 元年度事業報告及び決算について  
2. 理事の辞任及び後任について  
3. 表彰者について

#### 第2回理事会（2・9・28）

- 議事 1. 校友クラブ渉外活動委員について  
2. 職員人事について

#### 第3回理事会（2・12・14）

- 議事 1. 募金活動活性化対応策について  
2. 校友エステッククラブについて

#### 第4回理事会（3・3・27）

- 議事 1. 3年度事業計画及び予算案承認の件  
2. 校友会顧問・相談役懇談会について

#### 平成2年度事務報告

1. 会議の開催状況は下記通りです。

評議員会	(2・5・27)
総会	(2・5・27)
理事会	(4回)
常任理事会	(11回)
総務部会	(2回)
財務部会	(2回)
広報部会	(3回)
企画部会	(2回)
事業部会	(3回)
組織部会	(4回)
監査会	(1回)

その他、第9回全国（静岡）大会、全国支部長会議、エステック渉外活動委員会等が多数開催された。

#### 理事の一部変更

#### 組織部理事

溝上 俊治 殿に代って

(退任 平成2年6月22日)

本多 恵治 殿が後任となりました。

(平成4年3月31日まで)

### 財務部

世界的経済変動と国際情勢の激しい変化のなかで平成3年を迎え、さらに拡大した形で現在に至っております。当大学も新校舎での授業も軌道に乗り、これから益々の内容充実化が進展しつつあります。校友会においても、校友会活動は年ごとに活発化しており、昨年の静岡全国大会も盛大に開催され、成功裡に終わったことは、会員ともどもよろこばしいことと受け止めております。

財務的には、益々の活動の充実化とともに、収支のバランスがとりづらくなってきつつありますが、本年度もどうにか体面を保ち得ることができました。これは当然のことながら、校友会の皆様御協力の賜物として、あらためて感謝申し上げます。しかし長中期的な予測を致しますと、近い将来の学生数低減の時代に、果たして現

状を保ち得るかという、必ずしも楽観できない状態にあることは間違いありません。この点を考慮して、財務部会は悩みをかかえております。現在その対処法について検討中ではありますが、校友諸兄におかれましても、何か良い方策でもありましたら、是非御提案下さいませよう期待しております。

ますます活発化する活動の輪に、各支部ごとの点から線へ、そして面へと拡がり、さらに充実化して行くことを願っております。その基盤となる財政の確立をスタッフ一同願っておりますので、今後ともよろしく御高配下さいませようお願い申し上げます。

(大柳 康)

### 企画部

今年度の活動は、オフィス棟のエステッククラブ渉外委員会の行う“エステック共同利用事業計画への協力”新大学棟に“校友会のスペースを確保するための具体案作成”広報部を支援し、“校友会の会報の2回発行にむけての企画作成”等他の部所との共同作業を行い幅広い活動の中で、校友会の発展を期待したいと思います。昨年は、帝国データバンクの資料を入手しましたので、

本学園の大学卒業生のオーナー企業のリストの作成に入っております。一昨年の校友会創立90周年記念事業に協賛して頂いた各企業のリストの作成も考えております。

現在3,000余名の賛助会員は校友会にとって有力会員であり、まずこの様な方々や企業が中心となって校友会の支援組織を構成して頂ける様今年も頑張りたいと思います。(企画部長 小高 鎮夫)

### 組織部

#### ■ 全国支部長会議開催のご案内

平成3年度全国支部長会議を下記日程で開催します。

期日：平成3年5月25日（土）午後1時から4時

場所：母校（新宿校舎）28階 会議室

議題：平成2年度からの継続

会議終了後立食パーティを考えております。

当日一人でも多くの支部長さんごの参会をお待ちしております。

#### ■ お知らせ

その1

各支部総会にご出席の校友の皆さんに母校の写真の入ったテレホンカードを記念にと思っております。このテレホンカードの写真は変えていきたいと考えております。

その2

平成2年度まで、支部総会の通信費の一部をご請求のあった支部に対して、補助金を出して参りましたが、本部の財政難なこともあり、平成3年度より中止いたします。但し、不活性化の支部に対して、その支部が活動できるために、別途の形でお手伝いしてゆきたいと考えております。

#### ■ 首都圏支部統合についての経過報告

平成2年度発行の校友会報ナンバー111号にご案内しました、首都圏支部統合にあたり、都内、千葉、神奈川および埼玉の支部長および副支部長さんのご意見を頂くため7月7日に、組織部に在籍した方々および本部の方々のご意見を頂くため9月8日に、それぞれ母校で会合を開かせて頂きました。

ただ一度の集まりですので集約された方針はではありませんでしたが、貴重なご意見を沢山頂きました。一日も早く支部の活性化をするようにとのご意見、少し時間をかける必要があるとのご意見、自分の支部は毎年総会を開いているが、集まる方も年々高齢化している所以对策が必要とのご意見もありました。

都内にあります26支部中21支部が、支部長不在および高齢のため、支部活動が停止中という有り様です。

東京都内には校友21000有余名の方々が在住しております。母校の近くに住んでおりながら卒業後ほとんど母校を訪ねることがないと言う校友が多くいます。

そのためにも一日も早く支部活動が出来るように、どのような形の統合がよいか、いろいろ研究して新しい支部づくりを、支部の皆様方と考えて行きたいと思っております。

社団法人 工学院大学校友会  
 第46回評議員会 第35回総会 **開催お知らせ**

会長 丹羽 宏之

日時 平成3年5月26日(日)13時～16時  
 場所 工学院大学第一会議室(新棟28階)  
 議案 (資料参照)  
 第1号 平成2年度事業報告並びに収支決算報告書承認の件  
 第2号 平成2年度財産目録承認の件  
 ◎監査報告

第3号 平成3年度事業計画(案)並びに収支予算(案)承認の件  
 (注1) 本誌に同封の郵便はがきにより、折返し出欠の有無をご回答下さい。  
 (注2) 施行細則第10条により、当該議事について意思表示のない場合は、同意の意思表示とみなして、出席者数に加えることができますのであらかじめご了承下さい。

記念講演 「日本人の時間意識について」 懇親会 (講演終了後於28階)  
 学校法人工学院大学 生涯学習センター長 企画担当常務理事 田中 元先生  
 理事長・学長を始め学校側の多数のご来賓をお招きしてあります。

**平成2年度事業報告書**

事業に関する定款条文	事業内容
学校の教育施設の改善に関する助成 (定款第5条第1項)	1. 学校法人工学院大学と協議の上で援助する 2. 学園将来計画に協力
学校に在籍する学生、生徒の学修活動および就職指導ならびに教職員の調査研究の助成 (定款第5条第2項)	1. 学生、生徒の研修援助 優秀な学生には各学校毎に表彰 2. 高校自然科学部内閣総理大臣賞受賞を表彰
会誌および学術図書の刊行 (定款第5条第3項)	1. 校友会々報の発行 2. 会員名簿の刊行 学園コンピューターシステムによる会員名簿の作成
学術に関する講演会および見学会等の開催 (定款第5条第4項)	1. 学術講演会や見学会を開催
会員相互の親睦提携および学校との連絡を図るに必要な施設の設置 (定款第5条第5項)	1. 新年懇親会等の開催、全国大会の開催 2. 支部の支援、支部組織の活性化を図る 3. エステック共同利用の推進・校友クラブの設置に努力する
学校の行なう就職あっせんおよび紹介に関する援助 (定款第5条第6項)	1. 就職あっせん、事業所の紹介等を行う
その他目的を達成するために必要な事業 (定款第5条第7項)	1. 学校法人工学院大学創立百周年記念基金に協力 2. 定款改訂のための委員会にて検討中

**平成2年度収支計算書**

平成2年4月1日から平成3年3月31日まで

(単位:円)

科目	予算額	決算額	差異	科目	予算額	決算額	差異
<b>I 収入の部</b>				組織部費	( 200,000)	( 29,644)	( 170,356)
1 基本財産運用収入	499,000	139,260	359,740	事業部費	( 290,000)	( 110,636)	( 179,364)
基本財産利息収入	( 499,000)	( 139,260)	( 359,740)	企画部費	( 200,000)	( 172,220)	( 27,780)
2 会費収入	27,982,000	28,057,000	△ 75,000	賛助会費制戻金	( 1,300,000)	( 820,950)	( 479,050)
機械	( 3,748,000)	( 3,748,000)	( 0)	2 運営費	11,141,000	10,204,237	936,763
応化会	( 2,827,000)	( 2,827,000)	( 0)	本部会議費	( 931,000)	( 618,169)	( 312,831)
電気	( 4,561,000)	( 4,561,000)	( 0)	役員交通費	( 800,000)	( 554,980)	( 245,020)
建築	( 3,487,000)	( 3,487,000)	( 0)	旅費・交通費	( 200,000)	( 156,330)	( 43,670)
高校	( 4,058,000)	( 4,058,000)	( 0)	通信費	( 5,552,000)	( 4,883,415)	( 668,585)
専門	( 9,301,000)	( 9,376,000)	(△ 75,000)	振替手数料	( 90,000)	( 116,325)	(△ 26,325)
3 賛助会費収入	3,500,000	3,029,800	470,200	事務用品費	( 550,000)	( 710,169)	(△ 160,169)
賛助会費収入	( 3,500,000)	( 3,029,800)	( 470,200)	消耗備品費	( 300,000)	( 337,710)	(△ 37,710)
4 事業収入	0	1,317,513	△ 1,317,513	印刷製本費	( 1,400,000)	( 1,075,155)	( 324,845)
90周年事業収入	( 0)	( 1,317,513)	(△ 1,317,513)	修繕費	( 100,000)	( 20,600)	( 79,400)
5 雑収入	5,650,000	10,673,518	△ 5,023,518	貸借費	( 568,000)	( 577,896)	(△ 9,896)
受取利息・配当	( 5,500,000)	(10,574,978)	(△ 5,074,978)	対外費	( 200,000)	( 174,912)	( 25,088)
寄付金収入	( 100,000)	( 40,000)	( 60,000)	慶弔費	( 300,000)	( 217,216)	( 82,784)
雑収入	( 50,000)	( 58,540)	(△ 8,540)	公租公課	( 100,000)	( 17,200)	( 82,800)
6 特定預金取崩収入	47,500,000	47,500,000	0	雑費	( 50,000)	( 744,160)	(△ 694,160)
会館建設引当金取崩収入	( 35,000,000)	( 35,000,000)	( 0)	3 人件費	9,070,000	7,318,206	1,751,794
学園協力引当金取崩収入	( 2,500,000)	( 2,500,000)	( 0)	給与手当	( 7,800,000)	( 5,010,403)	( 2,789,597)
長期定期預金取崩収入	(10,000,000)	(10,000,000)	( 0)	臨時給与	( 0)	( 440,500)	(△ 440,500)
当期収入合計(A)	85,131,000	90,717,091	△ 5,586,091	福利厚生費	( 770,000)	( 713,003)	( 56,997)
前期繰越収支差額	37,900,000	37,255,878	644,122	退職金	( 0)	( 668,700)	(△ 668,700)
収入合計(B)	123,031,000	127,972,969	△ 4,941,969	退職給与引当金支出	( 500,000)	( 485,600)	( 14,400)
<b>II 支出の部</b>				4 固定資産取得支出	0	1,650,000	△ 1,650,000
1 事業費	58,698,000	57,220,439	1,477,561	5 特定預金支出	4,500,000	4,111,000	389,000
学園協力費	( 51,000,000)	( 50,000,000)	( 1,000,000)	会館建設引当金支出	( 2,000,000)	( 2,000,000)	( 0)
会報・出版費	( 1,720,000)	( 1,719,482)	( 518)	賛助会費引当金取崩支出	( 2,500,000)	( 2,111,000)	( 389,000)
学生・生徒奨励金	( 600,000)	( 579,000)	( 21,000)	6 予備費	1,722,000	1,650,000	72,000
支部対策費	( 1,938,000)	( 1,995,296)	(△ 57,296)	当期支出合計(C)	85,131,000	80,503,882	4,627,118
総会等大会費	( 1,200,000)	( 1,649,941)	(△ 449,941)	当期収支差額(A)-(C)	0	10,213,209	△ 10,213,209
広報部費	( 250,000)	( 143,270)	( 106,730)	次期繰越収支差額(B)-(C)	37,900,000	47,469,087	△ 9,569,087

(注) △は収入の部は減、支出の部は超過を示す。

**平成2年度貸借対照表**

平成3年3月31日現在 (単位:円)

資産の部	金額	負債及び正味財産の部	金額
1 流動資産	47,765,834	1 流動負債	1,702,510
2 固定資産		2 固定負債	69,923,880
基本財産	10,000,000	負債合計	71,626,390
その他の固定資産	109,061,777	正味財産	95,201,221
固定資産合計	119,061,777	(うち基本金)	(10,000,000)
<b>合計</b>	<b>166,827,611</b>	<b>合計</b>	<b>166,827,611</b>

**平成2年度財産目録**

平成3年3月31日現在 (単位:円)

資産の部	金額	負債及び正味財産の部	金額
流動資産	47,765,834	流動負債	1,702,510
固定資産		固定負債	
1 基本財産	10,000,000	在学生会費預り金	68,685,500
2 その他の固定資産	109,061,777	退職給与引当金	1,238,380
固定資産合計	119,061,777	固定負債合計	69,923,880
		正味財産	95,201,221
<b>合計</b>	<b>166,827,611</b>	<b>合計</b>	<b>166,827,611</b>

## 平成3年度事業計画(案)

事業に関する定款条文	事業内容
学校の教育施設の改善に関する助成 (定款第5条第1項)	1. 学校法人工学院大学と協議の上で援助する 2. 学園将来計画に協力
学校に在籍する学生、生徒の学修活動および就職指導ならびに教職員の調査研究の助成 (定款第5条第2項)	1. 学生、生徒の研修援助 優秀な学生には各学校毎に表彰
会誌および学術図書等の刊行 (定款第5条第3項)	1. 校友会々報の発行 2. 会員名簿の刊行 学園コンピューターシステムによる会員名簿の作成
学術に関する講演会および見学会等の開催 (定款第5条第4項)	1. 学術講演会や見学会を開催
会員相互の親睦提携および学校との連絡を図るに必要な施設の設置 (定款第5条第5項)	1. 新年懇親会等の開催、全国大会の開催 2. 支部の支援、支部組織の活性化を図る 3. エステック共同利用事業の推進を図る
学校の行なう就職あっせんおよび紹介に関する援助 (定款第5条第6項)	1. 就職あっせん、事業所の紹介等を行う
その他目的を達成するために必要な事業 (定款第5条第7項)	1. 学校法人工学院大学創立百周年記念募金に協力 2. 定款改訂のための委員会にて原案を作る

## 平成3年度収支予算書(案)

平成3年4月1日から平成4年3月31日まで

(単位千円  
△印は前年度より減を示す)

科 目	予算額	前年度予算額	増 減	科 目	予算額	前年度予算額	増 減
<b>1 収入の部</b>				旅費交通費	200	200	0
基本財産収入	0	499	△ 499	通信費	6,759	5,552	1,207
会費収入(6単体)	25,878	27,982	△ 2,104	振替手数料	90	90	0
賛助会費収入	3,500	3,500	0	事務用品費	600	550	50
事業収入	0	0	△ 0	消耗備品費	100	300	△ 200
雑収入	7,924	5,650	2,274	印刷製本費	1,600	1,400	200
積立預金取崩収入	0	47,500	△47,500	修繕費	100	100	0
当期収入合計	37,302	85,131	△47,829	賃借費	628	568	60
前期繰越収支差額	37,900	37,900	0	対外費	200	200	0
収入合計	74,816	123,031	△48,215	度弔費	300	300	0
<b>2 支出の部</b>				公租公課	130	100	30
●事業費	(8,466)	(58,698)	(△50,232)	雑 費	100	50	50
学園協力費	0	51,000	△51,000	調査費等	1,200	0	1,200
会報・出版費	1,820	1,720	100	●人件費	(8,540)	(9,070)	(△ 530)
学生・生徒奨励金	700	600	100	給与・手当	7,460	7,800	△ 340
支部対策費	2,526	1,938	588	退職給与引当預金繰入	500	500	0
總會等大会費	1,100	1,200	△ 100	福利厚生費	580	770	△ 270
広報部費	250	250	0	●固定資産取得支出	( 0)	( 0)	( 0)
組織部費	200	200	0	●積立預金	(4,500)	(4,500)	( 0)
事業部費	370	290	80	会館積立預金	2,000	2,000	0
企画部費	200	200	0	賛助会費積立預金	2,500	2,500	0
賛助会費割戻金	1,300	1,300	0	●予備費	(1,842)	(1,722)	(△ 120)
●運営費	(13,954)	(11,141)	( 2,813)	当期支出合計	37,302	85,131	△47,829
本部会議費	1,147	931	216	当期繰越収支差額	0	0	0
役員交通費	800	800	0	次期繰越収支差額	37,900	37,900	0

## ● 掲示板

### 「千葉県支部創立35周年史」の発行を終えて

#### — 支部活動活性化を願う —

千葉県支部常任顧問 小高 鎮夫

千葉県支部は昭和30年6月26日に川崎製鉄千葉工場にて第一回総会を開催して以来昨平成2年で満35年を迎え、それを記念して「支部創立35周年史」を企画し、11月21日開催の静岡大会に合せ発刊致しました。今回も昭和61年開催した第7回全国大会(千葉大会)の時同様に、常任顧問である伊藤真治氏により提案され、まずその資金として佐藤恵治顧問の過分のご寄付により、その後の編集活動が大変楽になります。ご厚情に心より感謝しております。編集委員は、佐藤正吾支部長以下高橋卓雄編集長を始め、伊藤真治、大嶋修平、熊谷登、関善司、島村慎夫、小高鎮夫の総勢7名で、丁度2.5年の編集期間を経て発刊(187頁、カラー、モノクロ各16頁)し、全国支部会員の皆様にも楽しく読んで頂ける様に、全国大会のスナップと全集合写真、大学学園や校友会のこの35年間の年表・比較写真など、千葉支部35周年史の枠を広げて編集を試みました。支部会員全員の名簿も巻末に掲載しました。

会員各位、県内企業の広告費そして、本部役員や全国支部長を中心に、県内外の校友の皆様方のご支援を得て、収支につきましても、先にご寄付頂きました佐藤恵治氏の全額程は手元に残りました。そこで今「佐藤恵治基金」の設立について役員会で打合せを行っております。この基金は、今後、資金面で支部活動の活性化に役立つことと思います。

私達千葉県支部は昭和60年2月より佐藤正吾(大学建築35年卒)が支部長となり、第7回全国大会(千葉大会)支部創立35周年祝賀会、創立35周年史と又、事業のない年は、県内4地区にて、地区別懇親会を開催し、常に本部と密接に連携を保ちつつ支部発展へ努力しております。

#### 弔 報

吉田 義雄 B建5卒 平成2年6月10日 逝去  
 鈴木 啓之 A建56回 平成2年7月12日 逝去  
 鈴木綱五郎 若手県支部長 平成2年12月21日 逝去  
 鈴木昇太郎 A建64回 平成2年12月27日 逝去  
 岡田 寛 元学長 平成3年1月14日 逝去  
 隈元 武彦 小田原支部長 平成3年3月15日 逝去

当支部の活性化が、少しでも校友会の発展のお役に立てば幸いと思う次第です。今後共会員皆様方のご支援をよろしくお願いいたします。(大学建築S34卒)

#### ■ 賛助会費納入のお願い

校友会 会長 丹羽 宏之

本会員の皆様には、校友会事業活動に対し常々ご協力ご支援を賜わり厚く御礼申し上げます。

校友会の活動充実の為の運用資金援助として皆様より賛助会費納入をお願いしておりますが、なお一層のご協力を頂きたく振込用紙を同封いたしましたのでよろしくお願い申し上げます。

別紙振込用紙にて会費を郵送して頂くことで、賛助会員の登録手続きをさせて頂きます。

## 学園創立百周年記念事業

### 募金状況について

過去4年間の校友会各同窓会別募金申込み状況は次のとおりでした。目標額達成まで今年もご協力下さるようお願い申し上げます。

#### 校友会個人別募金基準額

- ・昭和42年以前卒業生 3万円以上
- ・昭和43年～53年卒業生 2万円以上
- ・昭和54～平成2年卒業生 1万円以上

期限は5年間でありますので毎年基準額をご協力頂ければ目標(校友会3億円)達成ができます。

(平成3年3月末現在)

各 同 窓 会	金 額 (円)
機 械 同 窓 会	25,011,138
応 化 会	26,171,000
電 気 同 窓 会	20,536,000
建 築 同 窓 会	22,921,000
高 校 同 窓 会	13,933,000
専 門 同 窓 会	25,084,000
工 手 学 校	12,864,000
卒業生の経営する企業	59,139,000
合 計	205,659,138



●事務局だより

校友会事務局の所在は、大学棟28階の一隅にある。南側のエレベーターを下りると、その前が事務室である。室内の面積は46㎡で、室内に窓が一つある。窓の外は見えない。

在籍者は、4名で、内1名は13階で会員名簿の入出力業務に従事している。従って事務室勤務者は、3名である。

会員の方一人一人とは、直接的に接触する機会は少ない。あるのは電話によるさまざまな照会・依頼である。入会の希望、住所変更、知人・友人の動静照会である。次に各会合の attend がある。

平成2年の会合実績は下記のとおりである。

名称	総会	監査会	理事会	常任理事会	部会	計
回数	1	1	4	9	20	35

会合の場所の確保、出席案内、出欠の把握、資料の調整、その事後処理等の事柄である。

関係する人々は、校友会役員をお願いしている約50人の方々である。

最も重要な問題は収支及び資産の管理である。

収支・資産状況は本誌掲載によって見る通りである。インフレの現状から見て、富裕な個人で、同程度の家計を維持している人は少なくないと思う。

しかしながら会員諸氏の拠出金を管理し、多数の人々の活動を裏付けるものである以上、細心の注意を要すると思っている。

更に、人員と施設並びに備品の管理である。本会保有の施設といってもありふれた機器にすぎないが、その維持費もなかなかのものである。備品は、記録と図書と保存である。後代の人々に、よく理解してもらえるように、配慮を要すると考えている。

事務室の内部は最近、少しく改良して頂いた。関係者の方々に誌上を借りて、お礼を申し上げたい。

(文責 吉岡 隆男)

昨年度総会に於いて下記の方々に感謝状および表彰状を贈呈致しました。なお学生・生徒には合せて奨学金も贈呈した。

1. 感謝状贈呈

本会に多額の金品ご寄付頂いたことに対して

上野 壽 華 (高校機械29年卒)

関 善 司 (工手学校機械大12年卒)

2. 高校自然科学部表彰状贈呈

平成元年度高校部門研究発表に於いて『超電導モーターの研究』の発表で内閣大臣賞を受賞したことに対して

自然科学部 部員一同

指導教諭 後藤 道夫

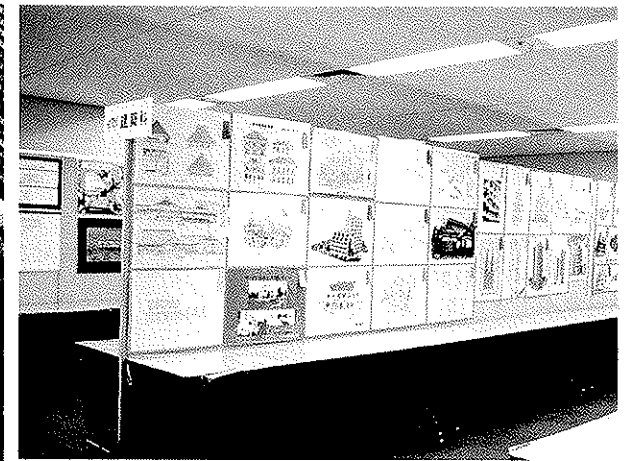
小川 隆

3. 学生・生徒の表彰状贈呈

学生・生徒のうち成績優秀な学生・生徒に対し各学校より推薦を受け、下記の者に表彰状および奨学金を贈呈した。

大 学 院	小 林 浩 秋	中井川 幸 生	
	本 間 敏 彦	小久保 正 美	
大 学	機 械 工 学 科	富 岡 英 和	朝 桐 智
		渡 邊 靖	
	化 学 工 学 科	松 崎 保 夫	
	工 業 化 学 科	田 中 晋	中 村 亘 宏
	電 気 工 学 科	西 川 善 博	小 幡 智 春
		木 下 博 孝	
	建 築 学 科	高 須 彰	飯 鉢 整
		佐 々 木 祐 子	
専 門 学 校	渡 辺 満 子	浦 野 晃 充	
	山 下 勝 行	西 山 聡	
高 等 学 校	浅 井 裕 二	大 田 裕	
	押 川 直 治		

●編集後記



↑ 専門学校 製図 作品展風景

← 第II期工事現場 (私達が学んだ新宿校舎あと)  
右ビル 大学棟  
手前 オフィス棟建設地  
後方 中層棟 (専門学校) 建設地

編 集 後 記

2月の日曜日に太田市(新他庄)と足利市(足利庄)の散策に行きました。寒い日にも関わらず足利館、京の町並み、鎌倉の町並みのロケ地をはじめ新田神社などゆかりの地には沢山の見学者であふれていた。テレビというメディアの影響のすごさにはあらためての驚きであった。

本誌を見た方々がつぎの総会や支部総会に出て見ようという会員が多くなることを願いつつ編集作業をしています。

本誌の批判として“こんな面白くないものを誰が読むか”という意見が多いのも事実、歴代の編集委員は苦勞を重ね以前よりは改良されていると思っています。

もうすこし立派なものを作れ

記事をもっと入れろ

という意見は以前からあり、今の形状・ページ数は何で決まっているかをお知らせすると、定形郵便物として

72円で発送出来るということです。1ページでも増えますと175円となり、約500万円の負担増になります。

広告を取ったらよい

という意見があり、編集委員が自分の仕事の合間に広告を取りに行くのは限界があり、その事に長けた委員がいたとしても交代したらつぎの委員がその代わりが出来るとは限りません。広告が取れなかったら誰が責任をとるのだろうか。言うはやすし行い難し。

企画会社にまかせたら

広告が無いから価値があるのだ

株主報告のようなつもりでよいのでは

などいろいろ意見があり、統一した方針には至りませんでした。

むずかしい問題をかかえながら本号も前号と同様の編集にしました。

(文責 宮沢)

